

8月9日 長崎に原爆が投下されて81年

核抑止論は、極めて危うい！

核兵器は「必要悪」ではなく「絶対悪」であり、
人類と核兵器は決して共存できない！

66

平和の原点は、
人間（ひと）の痛みがわかる心を持つこと

8月9日、長崎に原爆が投下されて81年が経過しました。長崎市の鈴木市長は、「平和宣言」の中で、私たちが出来ることとして被爆者の言葉を引用し「**平和の原点は、人間（ひと）の痛みがわかる心を持つこと**」「相手の立場や苦しみに心を寄せ、分かり合おうと努力することは、対立や衝突を避ける第一歩」と力強く訴えました。また、核保有国、核抑止力に依存する国に対して「核抑止力に頼れば頼るほど、核戦争の危険もまた高まる現実を直視するべきであり、核軍縮に向けて着実の前進すること」を強く求めました。

そして、日本政府に対して「核兵器禁止条約再検討会議への参加、憲法の平和理念と非核三原則を堅持し、国際社会の緊張緩和と軍縮に向けた外交強化」「核兵器に頼らない安全保障政策への転換」を強く要請しました。

被爆者の平均年齢が86歳を超えています！

「平和な世界」を次代へつなぐために、

今を生きる私たち1人ひとりが考え、行動しよう！